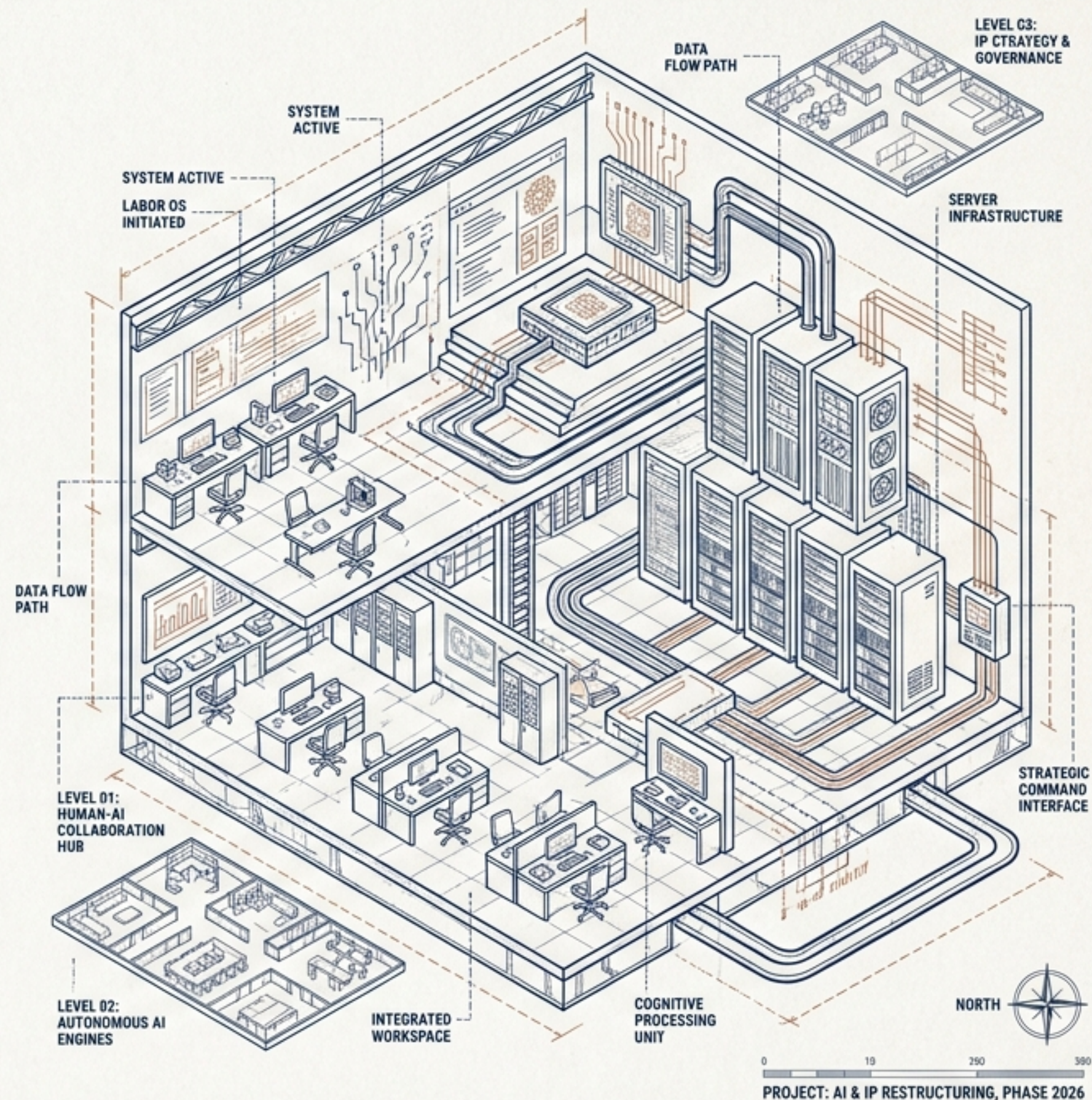


# 自律型AIと 知財実務の再構築

## Labor OS時代の戦略的設計図

2026年4月のパラダイムシフトが  
もたらすビジネスモデルの破壊と  
専門家の新たな存在意義

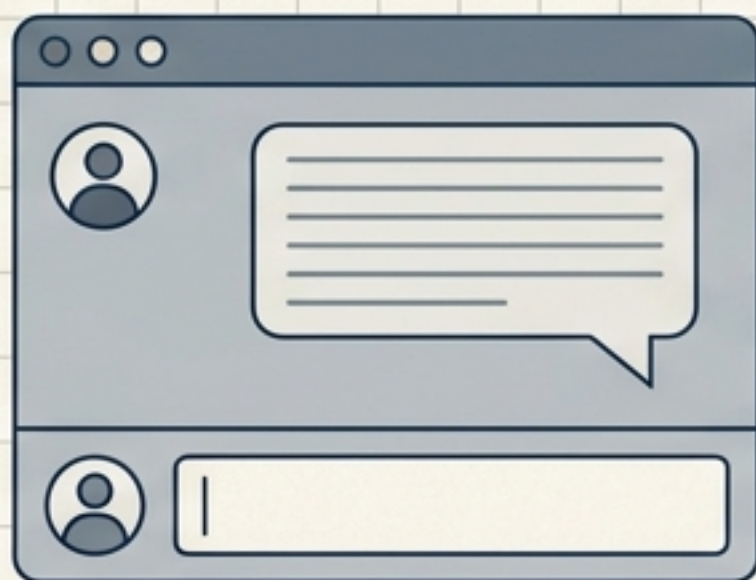


# 2026年4月、AIは「生成」から「自律実行」へ不可逆的に進化した

わずか48時間の間に巨大テック5社が相次いで自律型AIエージェントの基盤を発表。エンタープライズにおける「仕事の流れそのもの (Labor OS)」の設計権を巡る覇権争いが開始された。これは、知財実務における地殻変動の始まりを意味する。

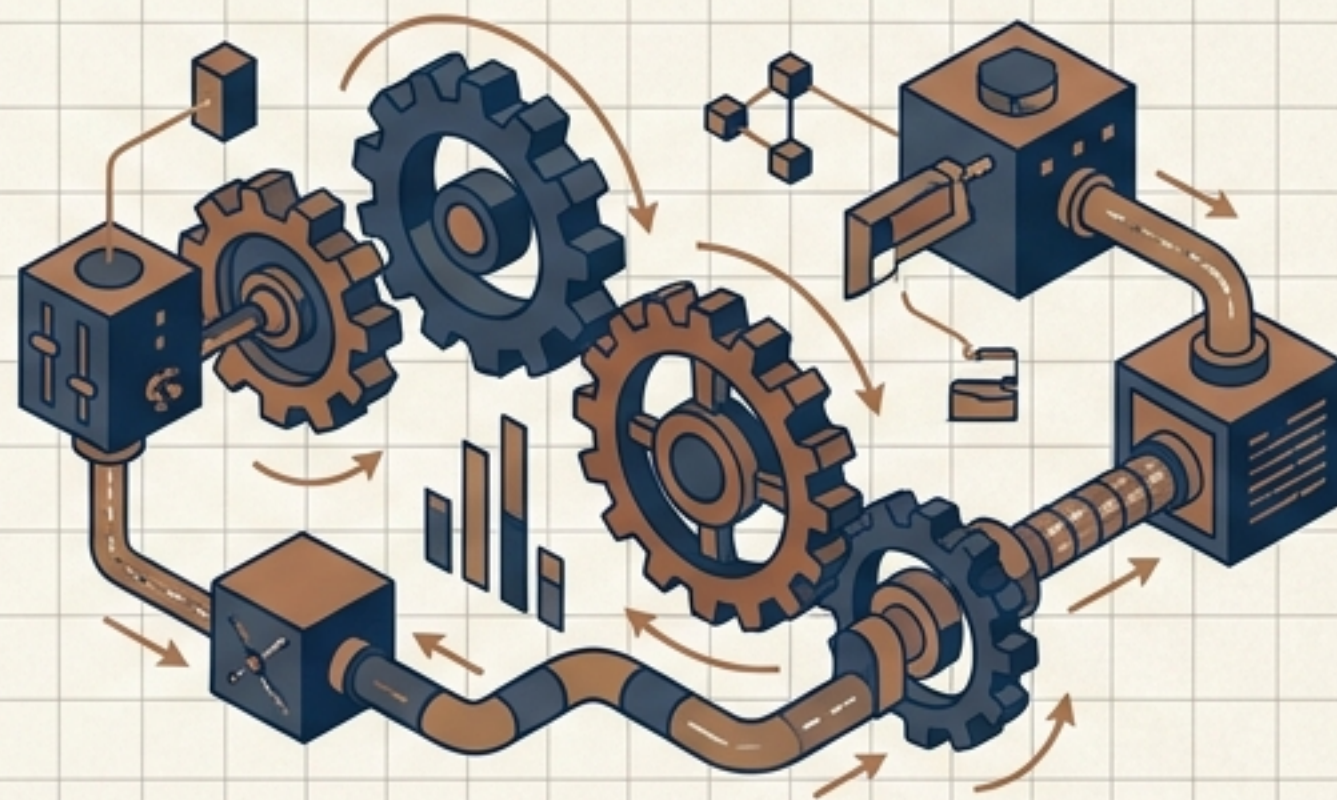
## The Activation Curve

2025年以前 - Generate



人間のプロンプトに対し、  
単一の回答を受動的に生成する時代

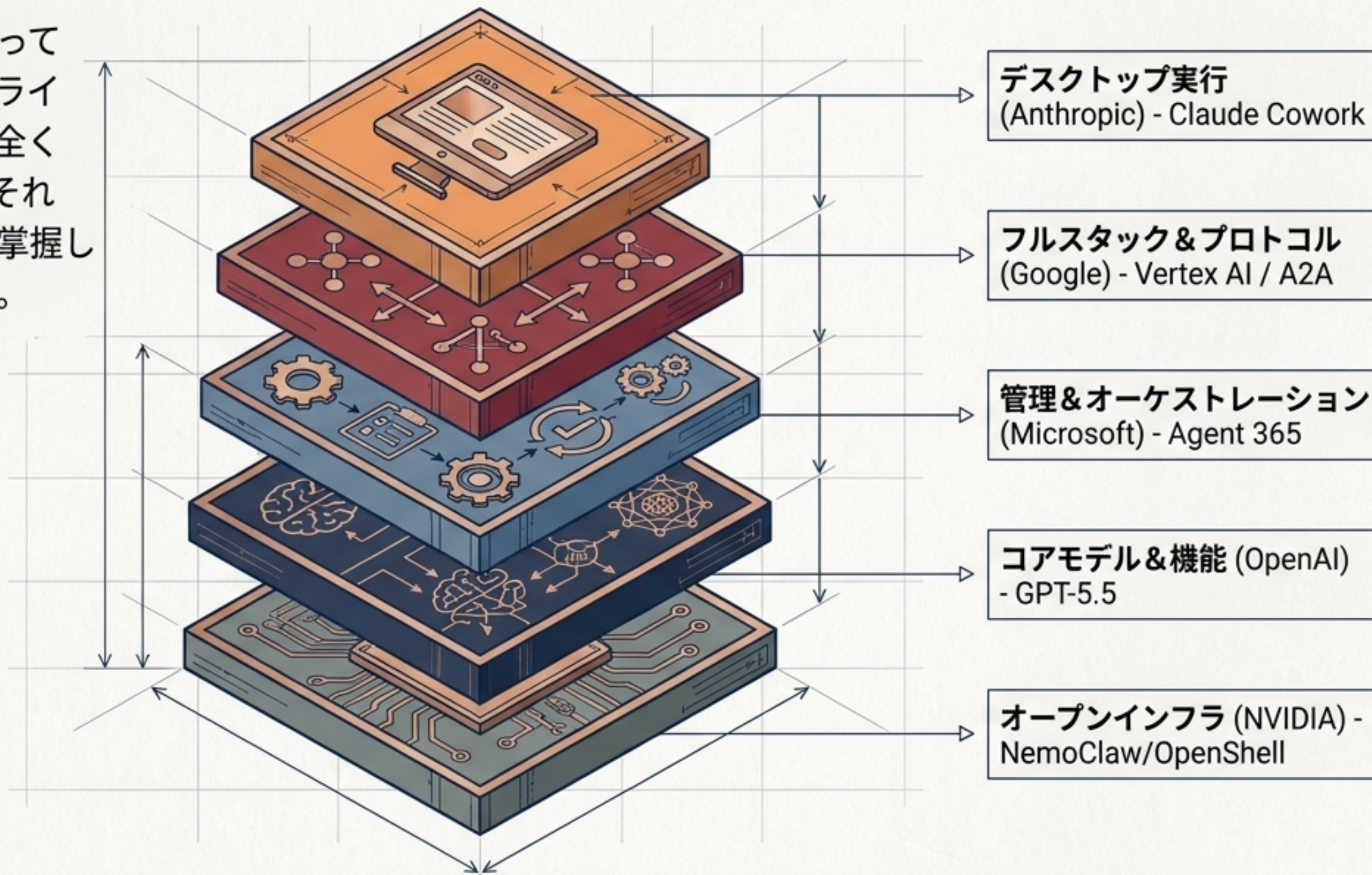
2026年4月以降 - Act



独自の判断基準とツールを用い、  
マルチステップの実務を自律的に遂行する時代

# 主要5社による「Labor OS」アーキテクチャの支配レイヤー

巨大企業は画一的な製品で競っているのではない。エンタープライズの労働システムを構成する全く異なる5つのレイヤーから、それぞれの主導権（Labor OS）を掌握しようと戦略を分岐させている。



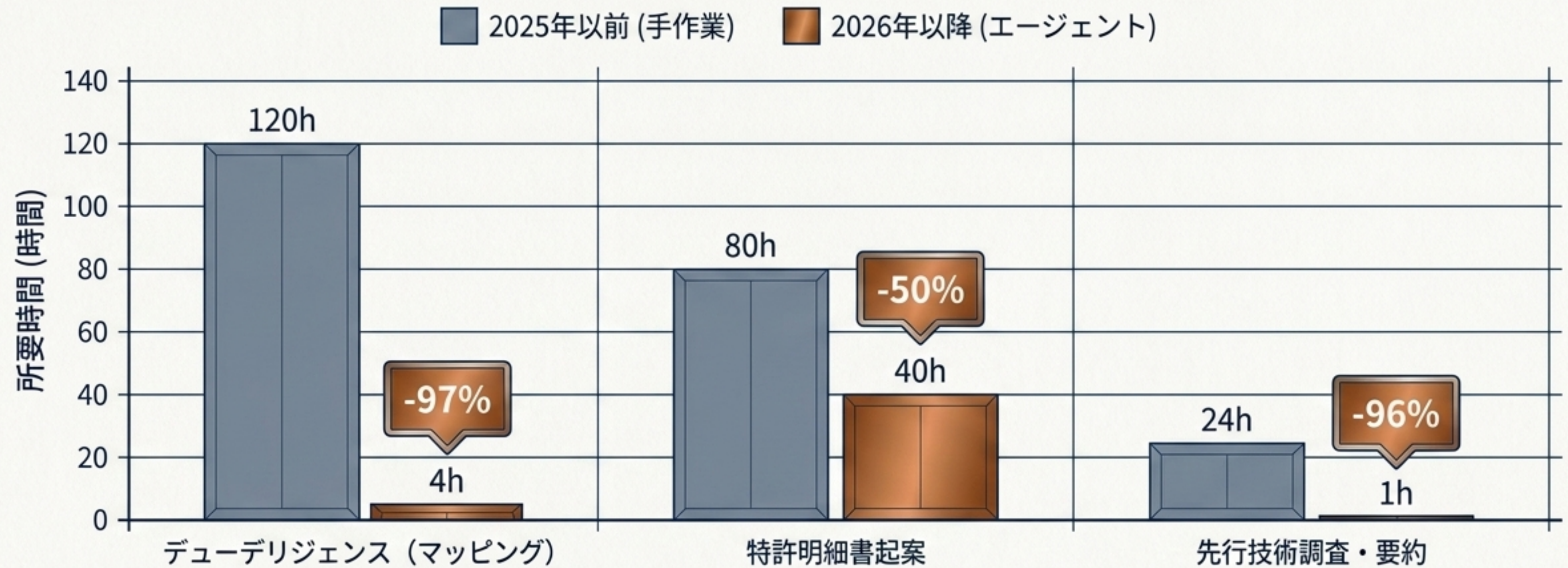
# 巨大テック5社の戦略的アプローチと知財業務への影響

各社のレイヤー支配戦略は、知財部門のインフラ投資やセキュリティ要件の意思決定に直結する。

企業	支配レイヤー	中核プロダクト	知財実務への直接的影響
Anthropic	デスクトップ実行・UI	Claude Cowork	PC上のローカルファイル（PDF/開示書）の自律的な整理・合成。
Microsoft	管理・オーケストレーション	Agent 365, Critique	複数モデル統合による知財成果物の厳格なファクトチェック。
Google	フルスタック・標準化	A2Aプロトコル	調査・起案エージェント間の協調ワークフロー構築。
NVIDIA	ローカル実行基盤	NemoClaw, OpenShell	完全オンプレミスでのゼロトラスト運用（未公開発明の保護）。
OpenAI	実務遂行型・基盤モデル	GPT-5.5	特許データベース等ツールの自律的な直接操作。

# アジェンティック・ワークフローによる圧倒的な時間圧縮

「The Volume and Complexity Trap」に苦しんでいた知財チームの労働集約的なタスクは、エージェントによって数週間から数時間へと圧縮された。



# 知財実務フェーズごとの不可逆的なパラダイムシフト

人間のプロンプトを待つのではなく、エージェントが自律的に他システムと連携し、プロセスそのものを再構築している。

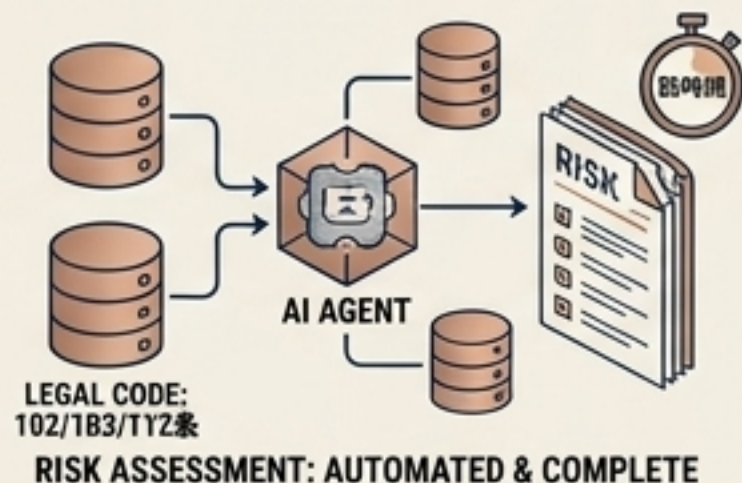


## デュデリジェンス

2025年以前: 手動での審査履歴解析



2026年以降: AIが102/103/112条リスクを数時間で網羅抽出 (課題抽出のコモディティ化)



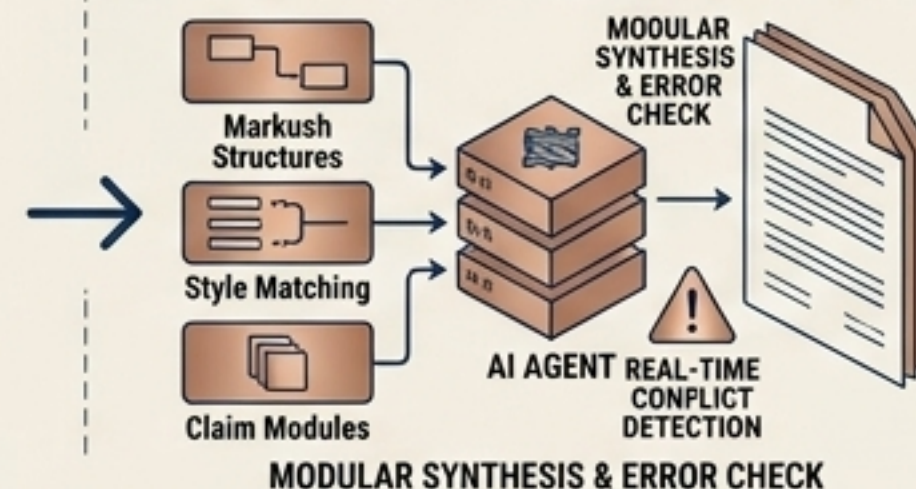
## 明細書起案

2025年以前: ゼロからの手動構成



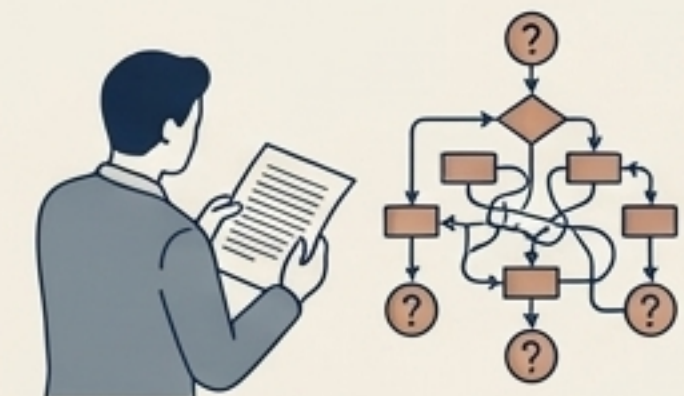
MANUAL DRAFTING

2026年以降: スタイルマッチングAIによるMarkush構造対応のモジュール式合成とリアルタイム矛盾検知



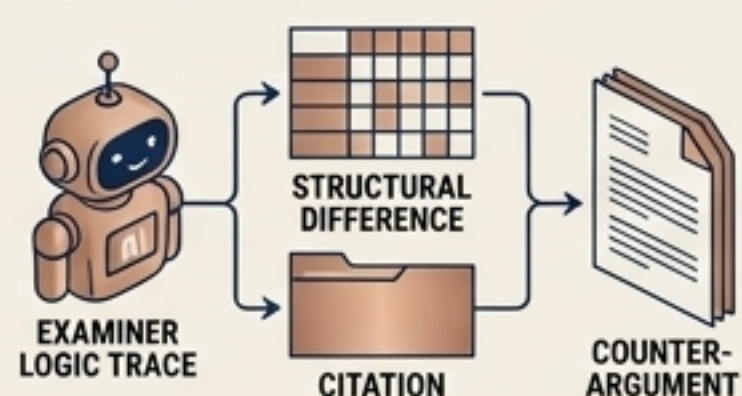
## 拒絶理由通知対応

2025年以前: 目視での論理解析



VISUAL LOGIC ANALYSIS

2026年以降: エージェントが審査官の論理をトレースし、引用文献との構造的差異を特定・反論構築

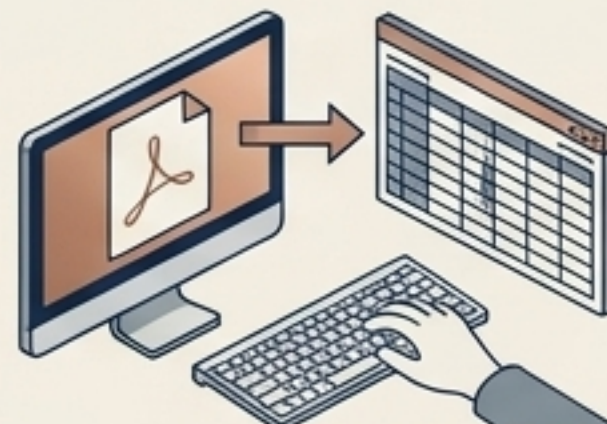


AI LOGIC TRACING & RESPONSE GENERATION



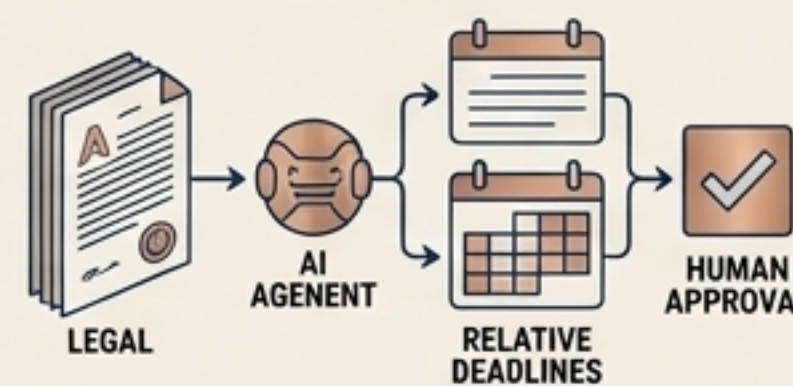
## ドCKETティング

2025年以前: PDFからの手動転記



MANUAL DATA ENTRY

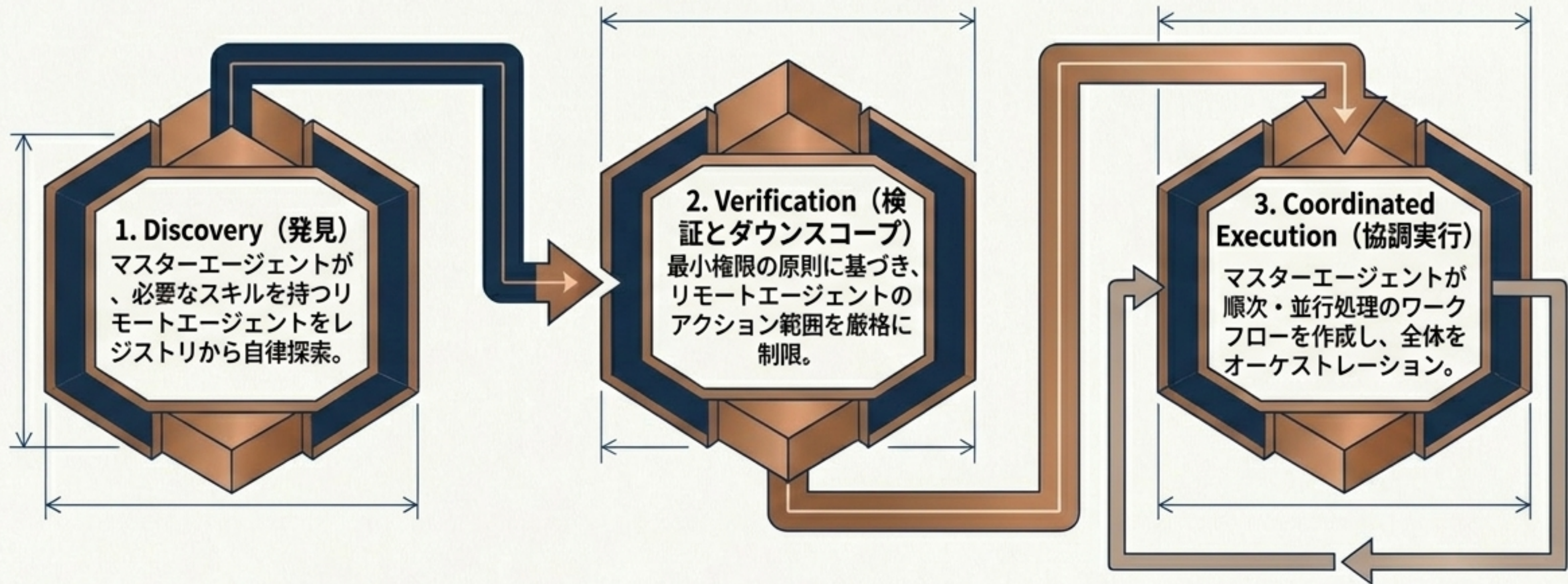
2026年以降: 複雑な法律文書から「相対的期限」を自律抽出し、人間は最終承認のみを担当



AUTONOMOUS EXTRACTION & HUMAN APPROVAL

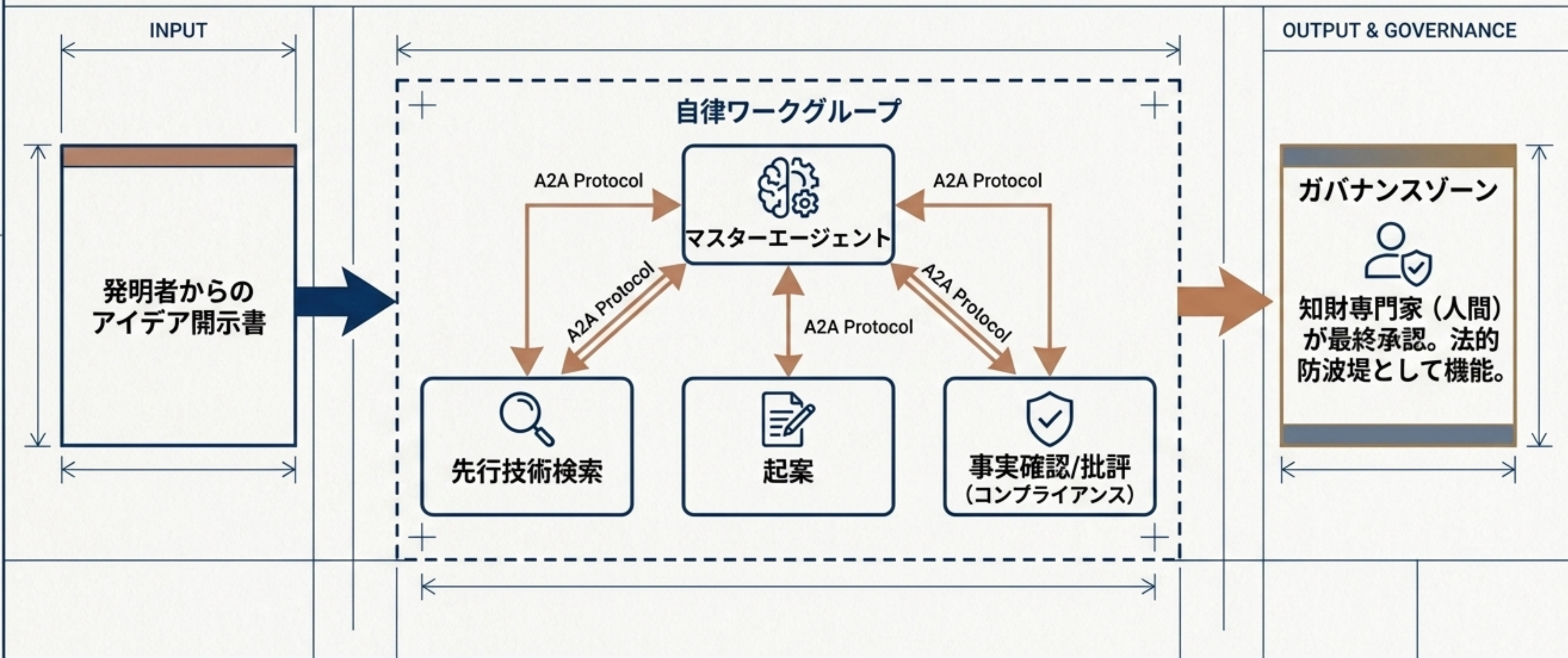
# エージェント間協調の標準規格：A2A プロトコル

Linux Foundationからリリースされた「A2A v1.0」により、異なる基盤モデルのエージェント同士が共通言語で協調作業を行うことが可能となった。



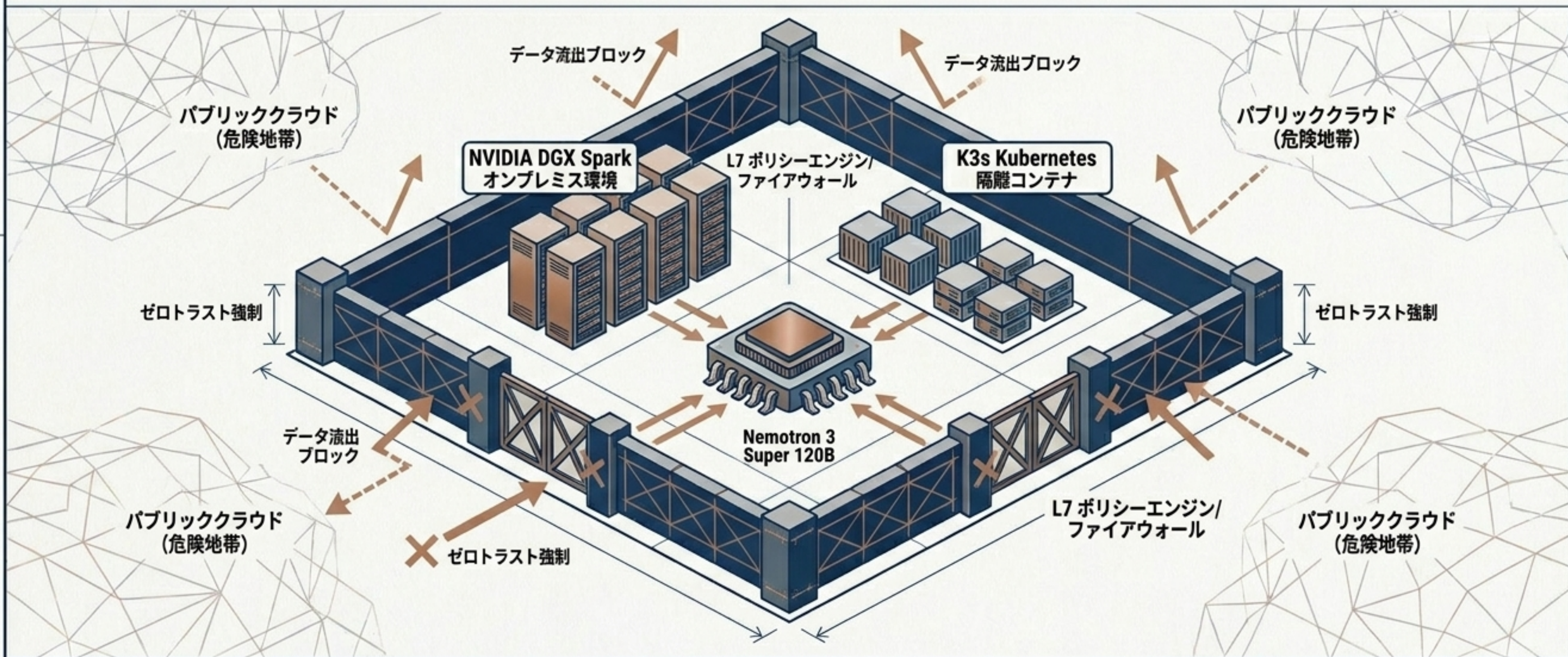
# デジタル・アセンブリー・ライン：自律型チームの編成

複数エージェントが連携し相互監視を実現。人間はプロセスの管理者ではなく「最終結果の判定者」となる。



# クラウンジュエルを守るゼロトラスト・サンドボックス

未公開の最高機密を保護するため、オンプレミス環境で隔離された「Walled Garden」アプローチが不可欠となる。

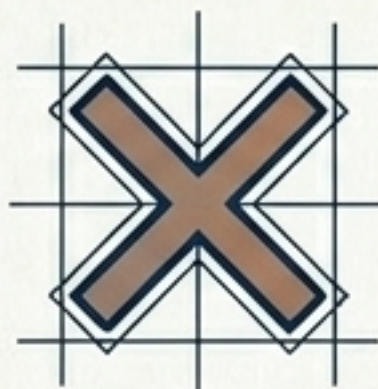


# ハルシネーションと「Agentic Liability」への対抗策

エージェントの自律的な暴走や架空情報の引用に対する防衛戦術として、相互検証メカニズムが実装される。

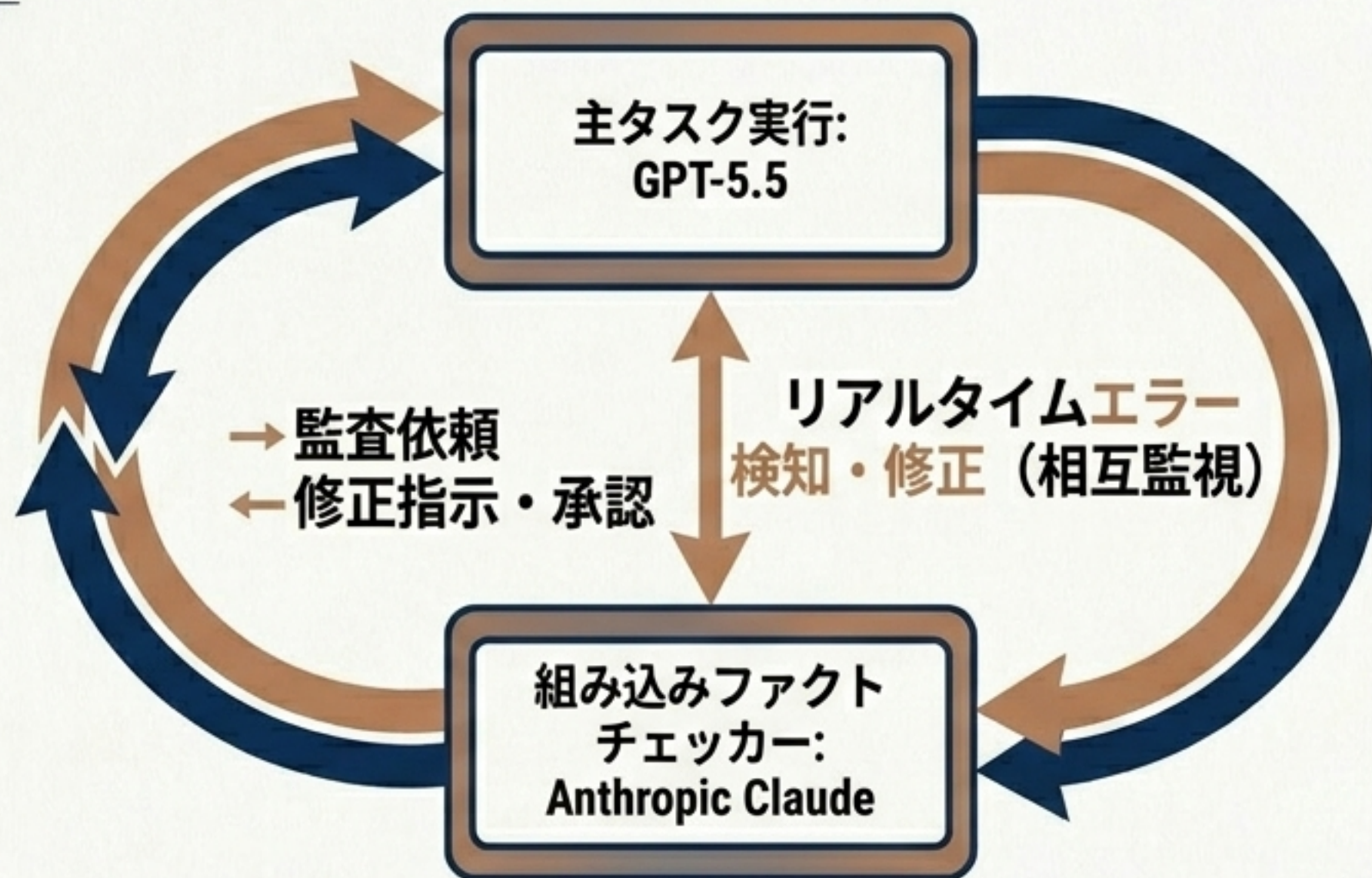
重大なインシデントリスク

マルチベンダー監視アーキテクチャ



• **Agentic Liability:**  
自律執行による権利喪失

• 架空判例・先行技術の引用と  
裁判所からの制裁



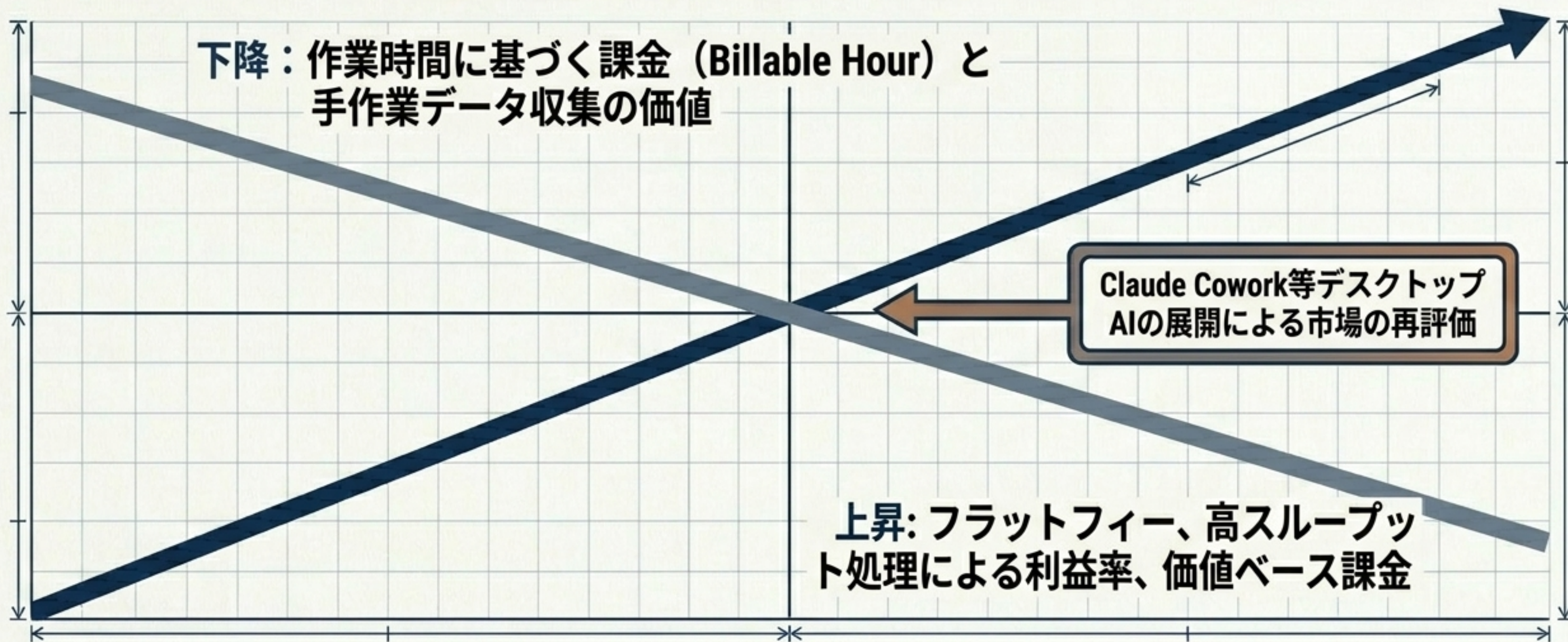
# 「法的防波堤 (Liability Shield)」としてのHuman-in-the-Loop

日本のAI事業者ガイドライン (第1.2版) も要求する通り、「人間の判断介入」は品質保証を超えた必須のコンプライアンス要件である。



# タイムチャージ (Billable Hour) モデルの終焉

労働集約的な作業時間を請求する伝統的モデルは崩壊した。市場は定型作業の完全自動化を織り込んでいる。

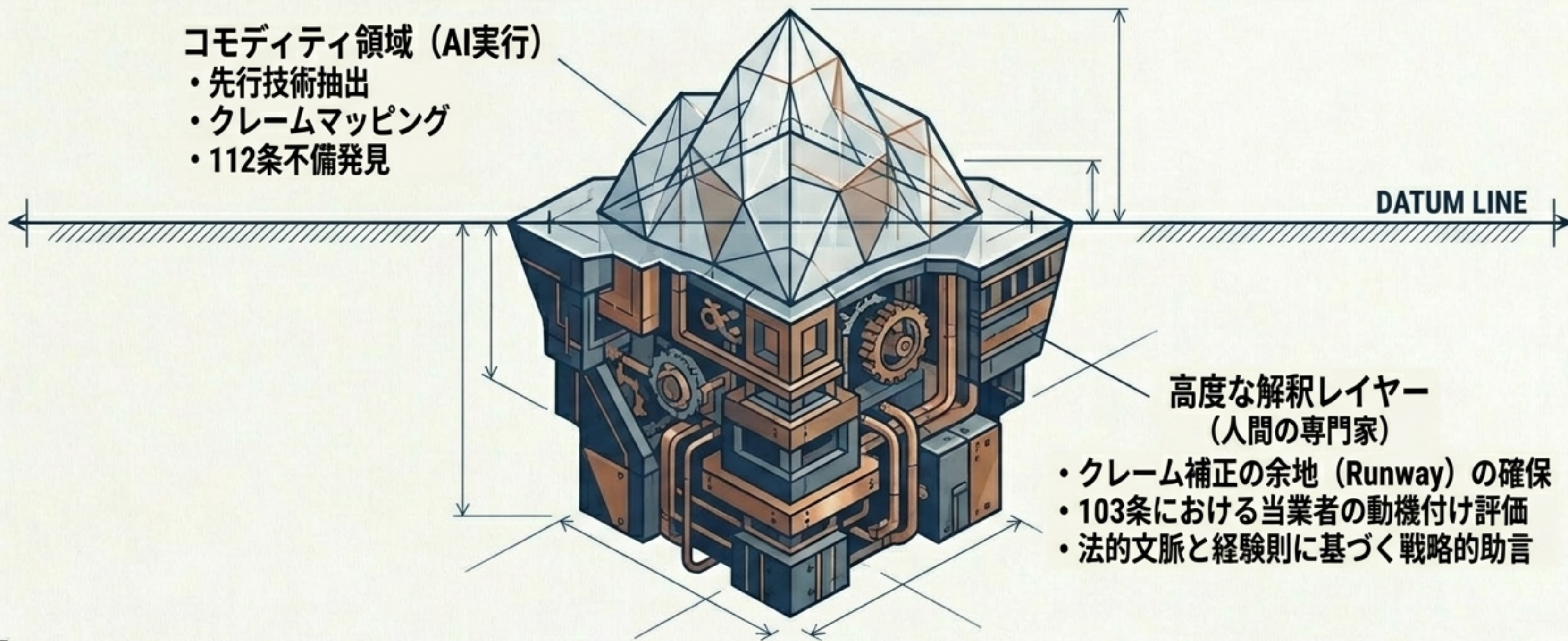


# 情報収集のコモディティ化と「高度な解釈レイヤー」への集中

AIはヒートマップを瞬時に生成できるが、それが「権利行使のレバレッジ」を持ち得るかの戦略的判断は人間にしかできない。

## コモディティ領域 (AI実行)

- 先行技術抽出
- クレームマッピング
- 112条不備発見



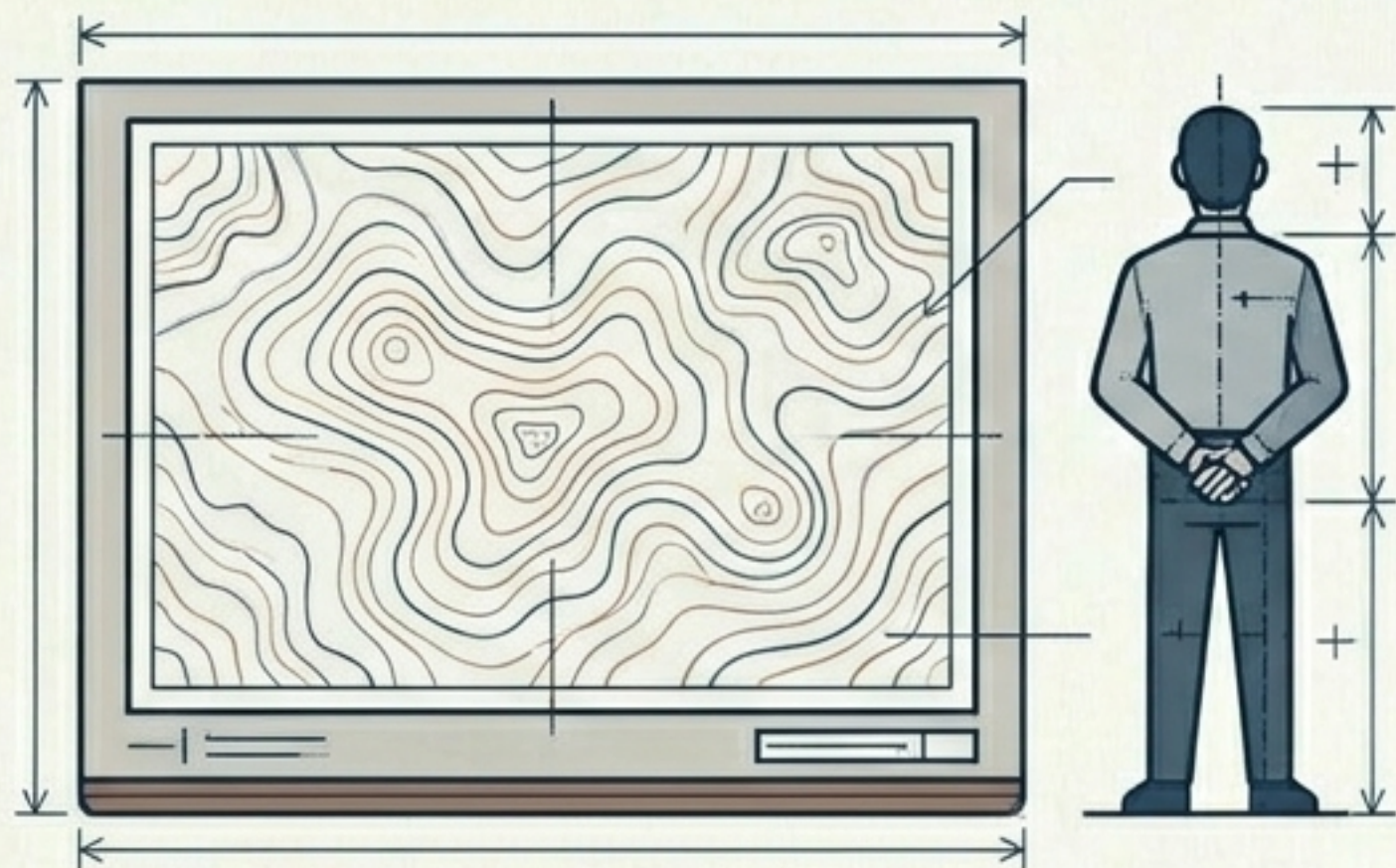
## 高度な解釈レイヤー (人間の専門家)

- クレーム補正の余地 (Runway) の確保
- 103条における当業者の動機付け評価
- 法的文脈と経験則に基づく戦略的助言

# パラダイムシフト：「地図製作者」から「山岳ガイド」へ

完璧な「地図」はAIが一瞬で作成する。求められるのは、ビジネスの結果に直接責任を持ち、共にリスクを取る役割だ。

## Mapmakers (地図製作者)



**Advisory Trap (助言の罠)：**客観的レポートを渡し、決断をクライアントに委ねる。

## Mountain Guides (山岳ガイド)



**Consequence Space (結果責任領域)：**どの山に登るかを決断し、結果に対するリスクを背負う。

# 「リーガル・プレイブック」の構築と組織的適応

テクノロジーが生み出す価値は20%に過ぎない。自社独自の専門性とガバナンスを融合させた組織だけが優位性を確立する。

